

北極の海を探る

海洋研究開発機構
副主任研究員

渡邊 英嗣 氏 (高49期)



- 1997年3月 東京都立川高等学校卒業
- 2002年3月 東京大学理学部地球惑星物理学科卒業
- 2008年3月 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程修了（理学博士取得）
- 2008年4月 東京大学気候システム研究センター 特任研究員着任
- 2008年7月 アラスカ州立大学フェアバンクス校国際北極圏研究センター 特任研究員着任
- 2011年1月 海洋研究開発機構 地球環境変動領域 ポストドクトラル研究員着任
- 2015年4月 海洋研究開発機構 北極環境変動総合研究センター 研究員着任

<立高生活>

幼少期から山登りを楽しんでいたこともあり、入学前から山岳部に入ることを決めていました。勧誘説明会当日から部室に長居していたと思います。平日は多摩川の河川敷で筋トレとランニング、ときに大量の山雑誌を背負って校舎の1階から4階までの往復を繰り返すトレーニングをしていました。当然ながら登山できるのは週末だけなのですが、土曜授業の直後に出発することがあったため、登山装備の格好で80リットルのザックを背負いながら登校して周囲から注目を浴びていました。



衛星観測史上最小面積を記録した
2012年9月16日の北極海氷分布

<大学～大学院>

地球の歴史や環境など自然現象に興味があったので、「地球惑星物理学科」がある東京大学を志望し、理科一類を経て進学することができました。学部4年の演習では、地震・火山から気象や惑星科学まで幅広い選択肢があったのですが、海でできる氷（いわゆる流氷）の変化を数値シミュレーションする「海氷モデリング」というテーマに妙に惹かれて、大学院でもその研究室に入りました。いろいろ調べてみると北極海では海氷が減りつつあるが、現場観測がなかなか難しく、スパコンを利用したシミュレーション研究は強力な武器になることがわかりました。運良く博士課程1年次に海洋研究開発機構（JAMSTEC）が保有する海洋地球研究船「みらい」の北極航海に観測補助のアルバイトとして参加することもでき、初めて見た海氷の美しさに感動したことを覚えています（当時まだオホーツク海の流氷も見なかったことので）。

<ポストドクから現在に至るまで>

博士号を取得した後は、アラスカ大学国際北極圏研究センター（IARC）に着任し、日本のJAXAとの国際共同研究に従事しました。北極海の家氷分布は人工衛星で毎日モニタリングされており、ウェブサイトで公開されているので是非ご覧ください。その後もJAMSTECで現在に至るまで「地球シミュレータ」を利用した北極海環境変動の研究を継続しています。北極海は20年前とは比べものにならないくらい注目度が増しており、資源開発や船舶航路など社会経済的にも重要視されています。日本もいままさに力を入れており、オールジャパン体制で「北極域研究加速プロジェクト ArCS II」が始まったところです。最近はその重要性を幅広く伝えるために「北極域研究学習ツール」の制作と運用も行っています。これは体験型のボードゲームで遊びながら北極域の現状と課題を把握できるので、是非皆さんにも体験してもらいたいです。あと自分の経験から皆さんに伝えとすれば「あまり先の心配はしない」でしょうか。大学院進学時も「博士号を取得できるかわからない」、ポストドク着任時も「任期後に次の職が見つかるかわからない」状況でしたが、リスクばかり考えては先に進めません。目の前のことを地道にやっていたらなんとかなるものだったりします



東京大学柏キャンパス



アラスカ大学 国際北極圏研究センター



海洋研究開発機構 横須賀本部

【関連ウェブサイト】



極域環境監視モニター



北極域研究加速プロジェクト



北極域研究学習ツール